

## 「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト実践研究協働校事業

### ☆後期教材研究会Ⅱ(外国語科)☆

9月8日(金)は、外国語科の教材研究会を行いました。提案した単元構想を踏まえ、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、課題解決ができる単元構想となっているか」「児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする単元構想となっているか」の2点について研究協議を行い、ご意見をたくさんいただくことができました。また、齊藤一弥先生(島根県立大学教授)の講話では、外国語でなければ学べないことは何か、小中の接続の意味は何かなど、お話を通してたくさんの学びがありました。その学びを先生方と共有しておきたいと思います。

<研究協議の様子>



単元構想としては、課題から追究し、解決するような流れになっていてよいのではないかと。



ALTをハッピーにするためか、給食の献立を考えることなのか、ALTを知るためなのか、目的を明確にする必要がある。



8時間目の単元ゴールのやり取りをする児童の目指す姿のレベルが高いのではないかと。



高知県教育委員会 小中学校課 齋藤 聖史 指導主事より

- 言語活動とは、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動であり、4つのポイントがある。
  - ①伝える「目的」や「必然性」がある
  - ②相手意識がある
  - ③「ほんもの」の活動である
  - ④コミュニケーションの楽しさや意義がある。
- 目的・場面・状況などをふまえ、問いを再度考えていく必要がある。
- 児童の興味・関心を高め、指導の効率化や言語活動の充実を図るために、単元を通してやり取りの様子をタブレット端末で録画し、振り返りや学習評価に活かすなど、効果的にICTを活用するとよい。

### ☆齊藤 一弥先生の講話☆

#### 1. ”コミュニケーション“ “なのか” それを支える練習 “なのか”

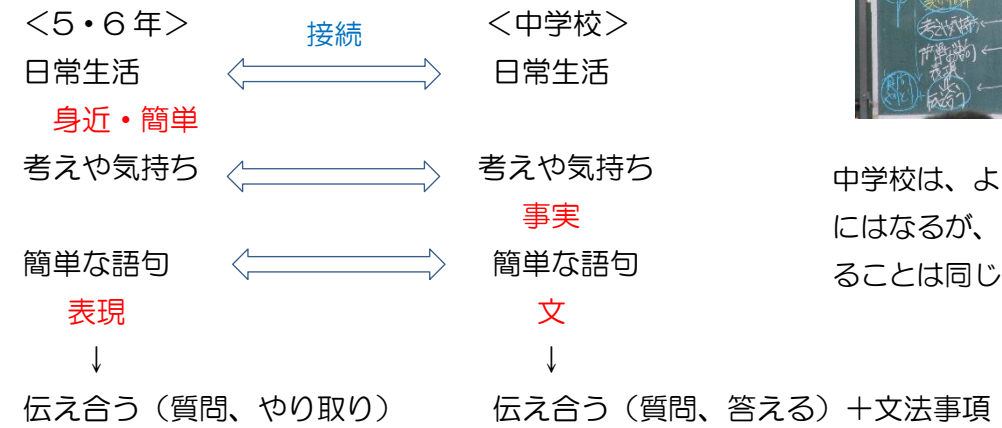
- 外国語でなければ学べないことは何か？  
外国語を用いる人々、生活、文化を意識することが大切である。
- 日本語以外でコミュニケーションすることの楽しさ、面白さ、発見、価値を感じているか？  
オーセンティック(真正さ)、必然さや切実さのある目的・場面・状況が大切であり、それが知への欲、学びの原動力となる。



中学校は、より詳しく、豊かな表現にはなるが、5・6学年に求めていることは同じレベル(文を除く)

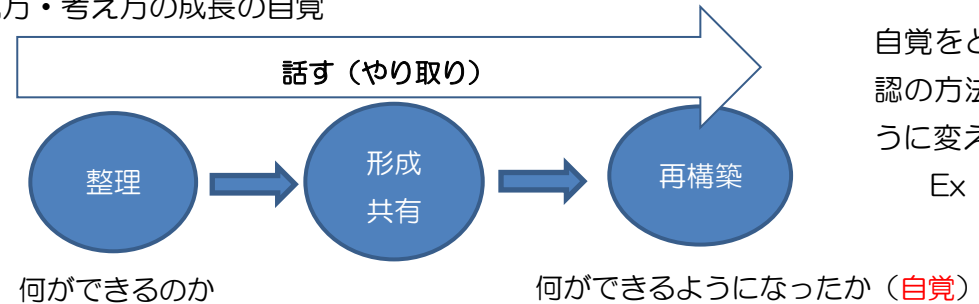
#### 2. 「外国語(5・6年)」設定の意味

〔話すこと〕 学習指導要領より



#### 3. 授業の景色を変える

##### ①見方・考え方の成長の自覚

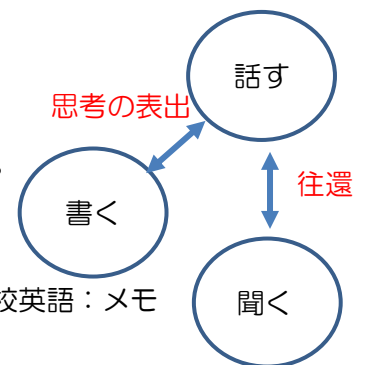


自覚をどのようにさせているか、確認の方法を子どもが実感をもてるように変える必要がある。

Ex 話すこと→音声で残す

##### ②領域間の関係の関心

子どもの能力は、“枠”で区切れるのか？  
「話す」「聞く」「書く」のトータルで能力を育てることが大切である。



中学校英語：メモ

##### ③ALTの関わり方の再考

ALTに何を期待するか、ALTの活用の仕方考える必要がある。  
外国の文化、習慣、生活などを生かすことが大切である。

Ex 「ALTの…へ伝えよう！」ではなく、「…と伝え合おう！」  
「ALTの…へ教えよう！」ではなく、「…と共に創ろう！」

→ コミュニケーションの必然、必要性へ！！

目的を明確にすること、外国の文化、習慣、生活などを生かしたALTとの関わり方、中学校への接続などについて、再度外国語チームで単元構想を考え、10月末の授業研究会に臨みたいと思います。